

普通科2年郷土探究「市へのプレゼン」(1/28)

1月28日(木)、普通科2年「理数探究」における探究成果を発表する「中間発表会②(市へのプレゼン)」が開催されました。普通科2年生は、地域の課題解決を目指した「郷土探究」に4月から取り組んできました。8つの分野に分かれ、生徒は1名から6名で班を作り、それぞれが「問い」を立て、探究してまいりました。この探究活動は都市役所にサポートいただきながら、令和元年から取り組んでいます。SSHの採択を受けた1期生、現2年生からは、3年次まで探究を継続します。



この探究活動では、本校の身に付けさせたい資質能力「いずみGS」のすべてを体得できる活動が詰まっています。今回の発表ではその中の「コミュニケーション」のスキルアップの場として設定しています。自身の探究の成果を「自分の言葉」で相手に伝え、ポスターとして「的確に表現」し、市役所からのアドバイスや評価を「自分ごととして聞き」、よりよいものにするためにさらに探究を続ける。そういう機会になりました。



これまでの探究活動では多くの班が校外活動も実施し、多くの近隣の事業者、小中学校等、施設等に足を運んで得たデータを元に、科学的・統計的な分析を心がけてきました。探究の進め方等においても市役所担当者から多くのアドバイスをいただき、生徒達は学びの多い活動を行えました。

1月30日(金)には、この成果を後輩達へ発信する「SSH探究学習発表会」が開催されます。附属中、理数科全ての発表が一堂に会する発表会です。今回の指摘を受け、さらに発展させた発表が当日見られることを期待しています。

ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。



全校生徒参加「SSH探究学習発表会」開催(1/30)

1月30日(金)、「SSH探究学習発表会」を終日開催いたしました。附属中学校1年から高校2年生まで、発表形態は異なりますが、全校生徒の前で自身の研究を発表する最大規模の校内発表会です。なお、発表会後にはSSH運営指導委員会も開催しましたので、発表会の様子は、運営指導委員、教育委員会の先生方にも参観いただきました。

◆附属中学校1年生

附属中学校1年生は、自然科学探究学習(SKT)で1人1研究に取り組んできました。今回はその中から代表者2名によるプレゼンテーション発表を行いました。高校生を含む全体の場での発表でしたが、堂々と自分の研究を、自分の言葉で発表し、その後の質疑にもしっかりと答えていました。



【続き】「SSH探究学習発表会」

◆附属中学校2年生

附属中学校2年生は、1年次の研究経験を踏まえ、継続、または新たな研究テーマで1人1研究に取り組んできました。中学2年生の研究は、3年生までの2年間に渡る研究となります。今回は「中間発表」という形で、全員がポスターを作成し、先輩や有識者の先生からアドバイスを受ける機会でした。ただ、インフルエンザ拡大により同日学級閉鎖となつてしまい、ポスター掲示のみとなりましたが、今月末に保護者之前に発表する機会を再設定します。



◆附属中学校3年生

附属中学校3年生は、2年次から引き続いての研究の集大成です。中学1年生同様、代表者3名によるプレゼンテーション発表を行いました。「問い」の設定や仮説について、また情報収集や分析等、三者三様ですが、それぞれのアプローチも非常に面白く、中学生の研究としてはかなりレベルが高いと、各先生方からの評価も高いものでした。

◆高校理数科1年生

高校理数科1年生は、SSH学校設定科目「サイエンス・リサーチ・プロセス(SRP)」「サイエンス・リサーチ・メソッド(SRM)」の時間で学んできた探究基礎力を活かし、これから高校3年までグループで科学探究を進めます。今回は主に、そのテーマ設定、研究仮説、研究計画について等、研究の方向性についてポスター発表を行いました。先輩達の探究の成果を隣で聞き、そしてその先輩から直接アドバイスを受けられる機会となったことで、今後の研究の見通しが開ける機会となったのではないのでしょうか。

◆高校普通科2年生

高校普通科2年生は、「理数探究」の時間で令和元年度より続く地域課題解決型探究学習、「郷土探究」の中間発表をポスターセッション形式で行いました。高校2年生での探究学習時間が2時間と増えたことで、多くの班が実地調査やアンケート・インタビューを積極的に行うことができました。都城市役所のバックアップを受けながら進めてきた探究学習には、データによる根拠がしっかり見える研究が増え、より説得力の増す発表になっていました。

◆高校理数科2年生

高校理数科2年生は、週3時間のSSH学校設定科目「スーパー・サイエンス・リサーチ(SSR)」で研究してきた成果の中間報告を、ポスターセッションにて行いました。物理・化学・生物・地学・数学・情報の6分野に分かれ、班毎に活動してきた研究です。12月には大学の研究室をお借りして、教授や大学生TAの方々に指導、助言をいただきながら、探究が一気に加速しました。今回のアドバイスをを受け、3年次の探究でかなり深められると期待します。



なお、この発表会には、本校SSH事業に指導・助言をいただいている運営指導委員の先生方4名と、県教育委員会2名の先生方にも参観いただきました。全作品・発表を参観していただく時間はありませんでしたが、興味を惹かれた作品を「審査員特別賞」として1作品ずつ選んでいただきました。受賞作品は以下の通りです。

◆審査員特別賞

- ◎IPAと数理モデルを用いた存在しない言語の響きの生成【理数科1年】
- ◎未来へつなぐ歴史発信プロジェクト【普通科2年】
- ◎動物の発声器官・発生する音の違い【理数科2年】
- ◎ヤマビル吸血可能な部位の選定方法について【理数科2年】
- ◎アンコンジャスバイアスを改善するアプリの開発【理数科2年】
- ◎吉都線を危機から脱線【普通科2年】

